



神経科学ニュース

Neuroscience News・Japan Neuroscience Society

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9(財)日本学会事務センター内
日本神経科学学会

TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

第26回日本神経科学大会のご案内 -第3報-

第26回日本神経科学大会 プログラム委員会、実行委員会

第26回大会の準備状況をご案内いたします。

日時:2003年7月23日(水) 25日(金):本大会

2003年7月26日(土):サテライト市民公開講座

場所:名古屋国際会議場(名古屋市熱田区熱田西町1番1号)

事務局:名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経生理学

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1

tel 052 853 8136, fax 052 842 3069 e-mail hhida @med.nagoya-cu.ac.jp

HP <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/molneuro.dir/jnss26/>

1. 演題登録1150題をこえる。

総数1181題の演題登録をいただきました。

演題募集の締め切りが例年より約2ヶ月早まりましたので(英文抄録Neuroscience Research Supplementを学会当日配布のため)、演題の集まりを心配しておりましたが、特別講演6題、モーニングレクチャー8題、シンポジウム34テーマ(174題)、一般講演145題、ポスター発表848題の、総演題1181題の登録をいただきました。多くの演題をお寄せいただき、誠に有り難うございました。活発な大会となることを期待いたしております。

目次

第26回日本神経科学大会のご案内 -第3報-	1
年会費改定について	3
第62回日本神経科学学会理事会報告	3
2004年度の神経科学大会について	8
神経科学学会奨励賞の募集について	8
Neuroscience Research冊子体購読のお願い	8
留学準備記	9
シンポジウム・研究会のお知らせ	10
研究助成	11
公募	12
その他	14
編集後記	14

2. 特別講演

Tsien, Richard W. (Dept Mole & Cell Physiol,
Stanford Univ Sch Med)

Unexpected features of vesicle and protein
turnover in presynaptic terminals

McKay, Ronald D. (Lab Mol Biol, NINDS/NIH)

Building the CNS, from stem cells to the first
synapses

Konishi, Masakazu (Dept Biol, Caltech)

Computations for sound localization in the owl's
auditory system

Vincent, Angela (Inst Mol Med, John Radcliffe
Hosp, Oxford)

The role of antibody to neuronal antigens in
causing neurological disorders

Mikoshiba Katsuhiko (Institute of Medical
Science, University of Tokyo, RIKEN Brain

Science Institute, [Ca²⁺ oscillation Project, ICORP,

(次ページへ)

4. シンポジウム:

以下の34テーマのシンポジウムが行われます。

No	オーガナイザー	タイトル
S1	石田直理雄(産業技術総研) 岡村 均(神戸大)	概日リズムのシステム分子神経科学
S2	木山博資(大阪市立大) 田賀哲也(熊本大)	神経系の構築と再構築を制御する転写制御ネットワーク
S3	五十嵐道弘(新潟大) 竹居孝二(岡山大)	シナプス前終末におけるCa ²⁺ 依存性の分子シグナリング研究の新展開
S4	Tetsuo Yamamori (NIBB)、Kathleen Rockland(RIKEN)	Neocortical Organization: genes, neurons, ensembles
S5	加藤総夫(慈恵医大) 金田 誠(慶応大)	細胞外 ATP 活性化イオンチャネル(P2X 受容体)の中樞神経系における機能と局在
S6	柳沢勝彦(国立長寿研) 横山信治(名古屋市立大)	脳の病態生理とコレステロールホメオスタシス
S7	山嶋哲盛(金沢大) 柳沼重弥(都神経研)	我が国における高次脳機能評価の現状
S8	前田信明(都神経研) 大平敦彦(愛知県コロー)	プロテオグリカンによる神経発生と病態の制御
S9	中野今治(自治医大) 板倉 徹(和歌山医大)	新たな脳細胞移植法の確立と障害脳機能の再建
S10	小野田法彦(金沢医大) 谷藤 学(理研)	内因性光信号のイメージング-感覚中枢の情報処理
S11	赤池 忠(北大) 渋木克栄(新潟大)	光学的機能画像解析の最前線: 分子からヒト脳機能まで
S12	白尾智明(群馬大) 岡部繁男(東京医科歯科大)	樹状突起スパイン形成を制御する分子機構
S13	柿木隆介(生理研) 川島隆太(東北大)	顔認知のメカニズム
S14	三上章允(京大・霊長研) 舟橋新太郎(京成大)	意志決定の脳内機構
S15	富永真琴(三重大) 小林茂夫(京成大)	温度受容の分子機構
S16	香山雪彦(福島県立医大) 本多和樹(東京医科歯科大)	オレキシンによる睡眠覚醒調節-分子メカニズムから行動まで-
S17	福田敦夫(浜松医大) 鍋倉淳一(九州大)	抑制性ニューロンの発生と機能分化
S18	久永眞市(東京都立大) 富澤一仁(岡山大)	サイクリン依存性キナーゼ(cdk5)が制御する神経細胞の生から死
S19	内山安男(大阪大) 桃井 隆(精神神経センター)	神経変性の分子機構: 小胞体からリソゾームへ
S20	久保義弘(東京医科歯科大) 高橋良輔(理研)	ミトコンドリアの機能・動態と神経細胞死
S21	藤澤 肇(名古屋大) 野田昌晴(基生研)	軸索ガイダンスと標的識別の分子機構
S22	貝淵弘三(名古屋大) 五嶋良郎(横浜市立大)	成長円錐のダイナミクス
S23	山本亘彦(大阪大) 中嶋一範(慶応大)	大脳皮質の発生・進化と機能構築
S24	大隅典子(東北大) 川野 仁(都神経研)	後脳の形成と細胞移動
S25	南 雅文(京成大) 池田和隆(都精神医学総研)	Aspects of Emotion: From Molecules to Behavior
S26	渡辺正孝(都神経研) 坂上(都神経総研)	Reward expectancy in the prefrontal cortex and striatum
S27	河田光博(京都府立医大) 林しん治(横浜市立大)	視床下部・辺縁系に対するホルモン性シグナル分子の標的作用: 行動と神経細胞の新生・可塑・受容体
S28	大村 裕(九州大) 佐々木和男(富山大)	内因性生理活性物質と脳高次機能
S29	畠 義郎(鳥取大) 渡部眞三(愛知県コロー)	Restoration of Vision Function in Mammals-From Plasticity to Prosthesis
S30	堀江秀典(早稲田大) 中別府雄作(九州大)	ガレクチン-1の神経機能再建へ向けての研究展開
S31	久保田 競(京大・霊長研) 松村道一(京成大)	The Premotor cortex and Rehabilitation
S32	岡田安弘(神戸大) 沢口俊之(北海道大)	脳研究の新しい視点を求めて
S33	宇川義一(東大神経内科) 塚田秀夫(浜ホト)	連続磁気刺激の作用機序
S34	渡辺恭良(大阪市立大) 尾上浩隆(都神経研)	In vivo Molecular Imaging (生体分子イメージング)

(前ページから)
JST)

Role of IP3 receptor/Ca²⁺ + signaling in brain development and neural plasticity

Mori Shigemi (National Inst Physiol Sci)

Higher nervous control mechanisms of locomotion; Multi-system level analyses.

3.モーニングレクチャー

以下の8名の方にモーニングレクチャー(第2日、第3日のAM 8:30-9:15)を行っていただくことになりました。

小野 武年先生(富山医科薬科大学)

田平 武 先生(長寿医療研究センター)

甘利 俊一先生(理研、脳科学総合研究センター)

鈴木 正昭先生(岐阜大学)

岡野 栄之先生(慶応大学)

藤澤 肇 先生(名古屋大学)

工藤 佳久先生(東京薬科大学)

永津 俊治先生(藤田保健衛生大学)

4.シンポジウム(前ページ参照)

5. 一般演題:

口答発表 145題 ポスター発表 845題

6.Travel Award

本大会では、アジアのyoung scientist を対象としてtravel award を差し上げることになりました。学会での発表・討論を通して研究の交流を行うこと、また本大会がより国際的なものになることを願っております。12名の応募がありましたが、プログラム委員会(2月22日)で審査し、4名の方にAward を出すことを決定いたしました。

年会費改定について

日本神経科学学会理事会ではつぎのような年会費改定を来る7月の総会において提案する予定です。

内容:正会員の年会費7000円を、2004年より9000円に改定します。

(入会費3000円および学生会員年会費3000円は据え置きとします)

改定の理由:

1.これまで未整備であった学会事務局、事務員勤務体制を整備するため。

新たに事務局を設置し、入会審査、科研費審

査委員候補者選挙の準備、種々助成金案内の広報の迅速化等、庶務業務の強化を図ります。

年会費徴収の業務はこれまでどおり、学会事務センターに委託します。

2. 現在、機関誌Neuroscience Research は発行後直ちに電子版に全会員がアクセスすることができるようになっていますが、その経費の一部を負担するため。また Neuroscience Research の電子版はElsevier社のデータベースNeuroscionに搭載されていますが、その搭載費や発送事務費の一部を負担する必要があります。

3.神経科学大会の一層の充実を図るため。

抄録集の全会員への配布、抄録集のCD-ROM化、大会運営に対する学会事務局の継続的サポート、大会運営経費への補助の強化など。

4.ウェブサイトの充実を図るため。

英語版の立ち上げ、更新、掲載の迅速化、独自ドメインの取得などを行います。

5.一方、支出の削減にも努めてきました。神経科学ニュースは編集の電子化により発行経費が50%削減されました。

今後予算の徹底的見直しを行い、経費の合理化につとめます。

本件につき会員のご意見をお伺いいたします。

5月26日までに学会長小幡邦彦

(jnss@mb.newweb.ne.jp)宛に電子メールでお寄せ下さい。

第62回日本神経科学学会 理事会報告

日時、2003年1月31日(金)14時-17時、

場所、学士会館赤門分館

出席

小幡 邦彦 会長、津本 忠治 庶務理事、水野 昇 会計理事、村上 富士夫 広報担当理事(第27回大会大会長)、廣川 信隆 理事、御子柴 克彦 理事、三品 昌美 理事、遠山 正彌 理事、丹治 順 理事、宮下 保司 理事、金澤 一郎 理事(第25回大会大会長)、柴崎 浩 理事、辻 省次 理事、

欠席

中西 重忠 理事、岡野 栄之 理事、川人 光男 理事、伊佐 正 理事、大隅 典子 理事、西野 仁雄 理事(第26回大会大会長)

報告事項:

1.庶務報告(津本庶務理事):会員構成の状況を報告

(資料1-1、新入会員名は資料1-2)。会員総数は前回の大会後の半年間であるため横ばいであるが、第26回大会を機にさらに増えることを期待している。

資料1-1

日本神経科学学会会員構成(内は新会員)

(2003年1月24日)

	正会員	学生会員
1 分子・細胞神経科学	1718(1)	152(1)
2 システム神経科学	1290(1)	111(1)
3 臨床・病態神経科学	466(1)	19(3)
4 パネル不明	225	3
合計	3699(3)	285(2)
賛助会員(1)	3	
賛助会員(2)	16	
名誉会員(名誉会長を含む)	9	
全会員数	4012	

退会 正会員 51名 学生会員 6名

移動 学生会員 正会員 238名

移動 正会員 学生会員 11名

復活 正会員 3名

2.会計報告(水野会計理事):2002年度の会計報告がなされた(資料2)。

3.会報編集報告(村上会報編集理事)会報編集は順調に推移している。

4.第25回大会(2002年7月7日より9日まで、会場は東京ビッグサイト)の結果について金澤一郎大会長より以下のように報告があった。第25回日本神経科学大会の演題数は一般演題(ポスターのみ)938題、特別講演6題、シンポジウム(25主題)131題、モーニングセミナー9題、ランチョンセミナー(4主題)7題の計1091題であった。登録参加者数は、事前登録が1434名(会員927名、非会員51名、学生456名)、当日登録が901名(会員338名、非会員200名、学生363名)で、計2335名であったが、非会員の講演者を含めると、参加者総数は2400名であった。また、収支的にはランチョンセミナーや寄付金・補助金の集まりが予想以下で出費をできるだけ抑えたことも報告された。

5.第26回大会に関して所用により欠席の西野仁雄大会長に代わり小幡会長より以下の報告があった。会期は2003年7月23日より25日までで、会場は名古屋国際会議場。発表演題数は、一般口演192題、ポスター発表650題、シンポジウム(32課題)約160題、特別講演6題、モーニングレクチャー8題、ランチョンセミナー6題の合計約1022題を予定している。シンポジウムの課題、特別講演の演

者、モーニングレクチャーの演者はほぼ決定した。また、アジア各国からの若手研究者の参加を促進するため Travel Award を作り、公募中であるとの報告もなされた。

6.第27回大会に関して村上富士夫大会長より以下の報告があった。第27回大会は神経化学会との合同大会なので大会名称を NEURO2004 とする。会期は2004年9月21日より23日までで、会場は大阪国際会議場に決まった。

7. Neuroscience Research の編集状況等について津本編集主幹より以下の報告があった。

1) 2002年は入稿数が245篇と2001年の173篇に比して42%増加した。海外、国内とも増加したが、特に国内からの増加が目立った。

2) 採択率は2001年と同じく60%であった。

3) 2003年より電子投稿が可能となるが、従来の投稿システムも残す予定である。

4) 2002年度の Neuroscience Research の会計は科研費補助金を計画どおりいただいたため順調であるが、冊子体の購読者数の減少という問題が顕著となってきた。

5) 現在の編集委員(編集主幹、Receiving Editor, その他の Editorial Board Member)の任期は2003年8月末で終了する。

8. 小幡会長より International Brain Research Organization (IBRO) の現 Secretary General である Albert Aguayo 教授の後任に Jennifer Lund 教授が選出された(任期は2004年1月より3年間)こと等が報告された。

9. 2002年度の Federation of Asian-Oceanian Neuroscience Societies (FAONS) の理事会が2002年9月30日に韓国ソウルで開催されたが、出席した津本理事より以下の報告がされた。1) 4年毎の FAONS 大会の中間年に開催される FAONS シンポジウムは2004年5月17-19日にイランのテヘランで開催される予定である。2) 2002年から2004年までの FAONS 役員に President-Elect として Y.S.Chan 香港大教授、Secretary として V.

Ravindranath インド国立脳研究センター教授、Treasurer として津本理事が選出された。伊藤正男本学会名誉会長は Honorary President に推挙された。3) 2006年の第4回 FAONS Congress は香港で行うことが決定した。4) 2010年の第5回大会は Taipei で予定されているアジア大洋州生理科学連合の大会と合同大会とする案があるが、Taiwan からの代表が今回欠席なので、Taiwan 神経学会と連絡をして今後検討することとなった。5) オブザーバとして参加の Albert Aguayo 教授 (IBRO

Secretary General)よりIBROとしては2003年のプラハでの世界大会以後は地域ごとの活動に力点を移すとの説明があり、FAONSとしてはIBROのアジア大洋州地域委員会と協力的な関係をもって活動していくことが確認された。

10. 小幡会長より、生物科学学会連合が提案しようとしている「生物」関連教科書に対する意見書、及び国際高等コンファレンス案に関する報告がなされた。

11. 各種学術集会等に対して協賛・後援を行った旨津本庶務理事より報告があった。

審議事項:

1. 2005年の第28回大会について津本庶務理事より開催地は東京地区で、大会長として宮下保司東京大学教授を推薦したいという提案があり、宮下教授の承諾を得てこの案を決定した。

2. 2003年予算案について水野会計理事より説明があり原案どおり承認した。今年度は本学会の事務所を開設する予定であり、その費用や名簿作成の費用等が盛り込まれている。詳細は資料3を参照されたい。

3. 上述した事務所の開設や会員に対する種々サービスの向上のため会費値上げを検討した。その結果、2004年より正会員の会費を現行の7000円から9000円に値上げし、入会金や学生会員の会費は据え置き案を会員に示し会員の意見を聞くことになった。

4. 会長の資格や選出方法等会則改定の可能性を検討したが、執行委員会で継続的に検討することになった。

5. 本年8月末に任期の切れるNeuroscience Research 編集委員に関しては、津本現編集主幹を再任することになった。編集委員の交代等は津本編集主幹に一任された。

6. 神経科学学会若手奨励賞、時実賞の選考委員を決定した。

資料1 - 2

新会員

正会員

パネル1、分子・細胞神経科学(13名)

大矢 進 名古屋市立大学大学院薬学研究科
細胞分子薬効解析学

門脇 辰彦 名古屋大学 大学院生命農学研究科

加藤 健太郎 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所

来馬 明規 理化学研究所脳科学研究総合センター
発生神経生物研究チーム

小池 真紀 東京大学 大学院医学系研究科 神経生理学教室

下村 敦司 藤田保健衛生大学 医学部 解剖学第一講座

高木 教夫 東京薬科大学 薬学部 第一薬理学教室

竹尾 聡 東京薬科大学 薬学部 第一薬理学教室

服部 光治 東京大学医科学研究所 脳神経発生分化分野

古川 昭栄 岐阜薬科大学分子生物学講座

松下 夏樹 日本オルガノン株式会社 医薬研究所

森 厚詞 大塚製薬(株)探索第二研究所

山村 寿男 名古屋市立大学大学院 医学研究科 分子形態学

パネル2、システム神経科学(10名)

大澤 五住 大阪大学大学院 生命機能研究科脳神経工学講座

江 依法 理化学研究所 バイオ・ミメティック
コントロール研究センター

近藤 洋史 京都大学 文学研究科 心理学研究室

佐郡 和人 理化学研究所脳科学総合研究センター
神経回路メカニズム研究グループ

高嶋 記子 三菱化学生命科学研究所

高橋 史峰 東京大学大学院理学系研究科 生物化学・生物情報科学

銅谷 賢治 ATR 人間情報科学研究所

内藤 智之 大阪大学 健康体育部運動生理学部門

李 泰喜 永寿ケアセンター

Niall P. Murphy 理化学研究所脳科学総合研究センター
神経回路メカニズム研究グループ

パネル3、臨床・病態神経科学(7名)

相澤 仁志 旭川医科大学 第一内科

内山 智之 千葉大学 医学研究院 神経生物学

佐々木 貴浩 東京大学 医科学研究所 先端医療研究センター免疫病態分野

曾良 一郎 東北大学大学院 医学系研究科医科学専攻神経科学講座

武田 龍一郎 宮崎医科大学精神科

田中 智洋 公立豊岡病院

宮崎 育子 岡山大学 大学院医歯学総合研究科 神経情報学

学生会員

パネル1、分子・細胞神経科学(7名)

遠藤 光晴 東北大学 大学院生命科学研究所

木矢 剛智 東京大学 大学院理学系研究科 生物科学専攻細胞生理化学研究室

佐藤 幸男 慶應義塾大学 医学部 生理学教室

杉山 暢宏 山梨大学 医学部 精神神経科

中野 知之 山形大学 医学部 解剖学第二講座

永安利江 京都工芸繊維大学
 林 謹子 京都工芸繊維大学
 パネル2、システム神経科学(11名)
 池永 隆徳 広島大学大学院 大学院生物圏科学
 研究科 水族生理学研究室
 小野田 慶一 広島大学 大学院生物圏科学研究科
 桑島 真里子 北海道大学医学研究科機能分子学分野
 城間 晋作 九州工業大学 大学院情報工学研究科
 高山 伸朗 岐阜大学農学部獣医学科家畜解剖学
 田淵 善規 上智大学大学院 電気・電子工学専攻
 野川 純平 名古屋大学 情報科学部

資料2

2002年度日本神経科学学会会計

(2002年1月1日～2002年12月31日)

	予算	決算	備考
収入			
前年度繰越金	4,422,077	4,422,077	
会員入会金	900,000	963,000	2002年度入会者 316名
正会員年会費	22,312,500	21,242,150	2003年1月24日現在正会員数 3699名
学生年会費	1,197,000	1,398,000	2003年1月24日現在学生会員数 285名
前受け金		225,000	
賛助会員年会費 3万	81,000	90,000	2003年1月現在会員数 3件
賛助会員年会費 10万	1,350,000	1,500,000	2003年1月現在会員数 16件
預金利息	1,000	649	
広告料	1,050,000	1,000,000	
雑収入		17,500	会報購読料・名簿売上等
返戻金		14,592	第25回大会より
収入計	31,313,577	30,872,968	
支出			
IBRO分担金	540,000	498,400	2002年度分担金 4,000\$
FAONS分担金	1,012,500	882,143	2002年度分担金 2\$×正会員数
会報印刷費	2,100,000	1,544,550	2002年 No1～No6
理事会会合費	200,000	181,933	
委員会会合費	250,000	162,825	
旅費・交通費	500,000	560,630	
謝金	2,500,000	2,560,800	
印刷費	200,000	202,038	
通信費	5,500,000	4,839,833	
消耗品費	50,000	19,091	
備品	200,000	9,240	
NSRへ	3,000,000	3,000,000	
学術大会補助金	2,000,000	2,000,000	
ワークショップ補助金	200,000	200,000	
渡航費用	100,000	0	
事業費積立金	500,000	500,000	
事務局経費	1,000,000	800,636	電話料金・光熱費等
優秀論文賞(NSR)	600,000	600,000	
日本神経科学学会奨励賞	300,000	400,000	
事務センター支払い金	6,000,000	5,494,445	
予備費	4,561,077	7,000	年会費返金
支出計	31,313,577	24,463,564	
差引残高		6,409,404	
事業費積立金 2003年1月現在 8543236円			

橋本 信寛	電気通信大学 情報システム学研究科 情報ネットワーク学専攻	パネル3、臨床・病態神経科学(3名) 小坂 浩隆 福井医科大学 精神医学講座
保坂 亮介	埼玉大学大学院 理工学研究科	代 紅梅 東北大学 医学系研究科 細胞薬理
松本 敦	名古屋大学 環境医学研究科	高木 慶子 東京薬科大学 薬学部 第一薬理学教室
Kusindarta Dwi Liliek	岐阜大学農学部獣医学 家畜解剖学講座	

資料3

2003年度日本神経科学学会予算案

(2003年1月1日~2003年12月31日)

	予算	備考
収入		
前年度繰越金	6,409,404	
会員入会金	900,000	3000×300
正会員年会費	21,658,000	7000×(3700+120-180)×0.85
学生年会費	1,225,500	3000×(270+180-20)×0.95
賛助会員年会費 3万	81,000	現在会員数 3件×0.9
賛助会員年会費 10万	1,440,000	現在会員数 16件×0.9
預金利息	500	
広告料	1,050,000	175000×6
収入計	32,764,404	
支出		
IBRO 分担金	520,000	2003年度分担金 4,000\$
FAONS 分担金	962,000	2003年度分担金 2\$×会員数
会報印刷費	1,800,000	30万×6
理事会会費	200,000	
委員会会費	200,000	
旅費・交通費	700,000	
事務員経費	3,600,000	
印刷費	250,000	
通信費	6,500,000	
消耗品費	50,000	
備品	500,000	ノートパソコン購入予定
NSR 補助金	2,500,000	
学術大会補助金	2,000,000	
ワークショップ補助金	200,000	生理研トレーニングコース
事務センター業務委託費	6,000,000	
事業費積立金	250,000	
事務局経費	1,500,000	レンタル料・光熱費等
NSR 優秀論文賞	600,000	20万円×3
日本神経科学学会奨励賞	400,000	10万円×4
名簿作成費	3,000,000	
講師派遣費	100,000	FAONS&IBRO
予備費	932,404	
支出計	32,764,404	

2004年度の神経科学大会 について

2004年度は神経化学会と合同で大阪で開催の予定です。会場と日程は下記の通りとなっております。皆様の予定表にご記入ください。

会場：大阪国際会議場(大阪市北区中之島)
日程：2004年9月21日-9月23日

広報担当理事 村上富士夫

神経科学学会奨励賞の 募集について

神経科学学会では、2003年の日本神経科学学会奨励賞の募集を開始しました。この奨励賞は、満37歳以下の若手研究者を対象としています。下記のとおり要項をご参照の上、多数の方々にご応募くださることを期待しています。応募規定の詳細は、学会ホームページまたは神経科学ニュース(2001, No.2)を御覧下さい。

記

1. 趣旨

日本神経科学学会は、将来本学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として本奨励賞を設けました。本奨励賞は個々の論文を対象とするものではなく、申請者の研究実績、研究構想と発展性を評価して選考します。

2. 応募資格

3年以上の会員歴を有する満37歳以下(平成15年12月末日時点)の日本神経科学学会の会員を対象とします。受賞候補者は、原則として単名とします。

3. 表彰

日本神経科学学会大会において受賞者を表彰し、賞状及び副賞10万円を贈呈します。

4. 応募方法

応募者は次の(1) (5)の書類を各10部ご用意いただき、神経科学学会奨励賞選考委員会宛て(〒113-8622 日本学会事務センター内、文京区本駒込5-16-9)にお送りください。

(1)申請書(所定の様式に従い、日本神経科学学会会員(正会員に限る)による推薦のあるもの、様式はホームページからダウンロードできます)、(2)履歴書(受賞歴を含む)、(3)主要業績リスト、(4)申請課題に関する800字以内の抄録、(5)申請課題に関連した論

文(1編)の別刷(印刷中の論文については校正刷りの写し)。

5. 申込締切り

平成15年4月15日消印有効

以上

Neuroscience Research 冊子体 購読のお願い

本学会の機関誌、Neuroscience Research は、電子版につきましては会員の皆様が無料でアクセス出来るよう設定しておりますが、冊子体につきましては会員の皆様に特別価格 13000円(Elsevier の設定価格は17200円)で販売しております。

Neuroscience Research は昨年より投稿原稿数が増加し、優れた論文が多数掲載され従来より部厚く内容の濃い冊子体となっております。この冊子体には、長期保存に耐え、遠い将来でも確実に読むことができるという長所とともに読者に取りましていつでもどこにでも携帯でき読み易いという捨て難い点があります。したがって、

Neuroscience Research 編集委員会としましては、電子版とともに冊子体は今後も変わりなく発行する予定であります。また、学術定期刊行物として補助金をいただいております日本学術振興会からは一定数(基準)以上の冊子体の発行が求められておりますが、最近冊子体の購読者数が減少しこの基準を満たせない恐れが出てきました。以上、会員の皆様におかれましては、本学会からの国際的ジャーナルの発行をご支援いただくためにも、2003年より冊子体を新たにご購読いただくよう、心よりお願い申し上げます。尚、購読希望の方は学会事務局(jnss@mb.newweb.ne.jp)あて申し込み用紙をご請求いただくか、通信欄にNeuroscience Research 購読希望とご記入の上、下記口座宛ご送金ください。

郵便振替 00150-4-192847 日本神経科学学会

Neuroscience Research 編集主幹 津本忠治

留学準備記

山本憲司
産業技術総合研究所
脳神経情報研究部門特別研究員

3月より2年間の予定で学術振興会海外特別研究員として米国ピッツバーグ大学のPeter Strick教授の研究室で研究する。数年前(といっても5年以上前になってしまったが)までATR人間情報通信研究所で先輩としてご指導いただいた本神経科学ニュース編集委員の大阪大学大学院生命機能研究科小林康先生から電子メールが届いた。留学体験記ならぬ「留学準備記」を提出するようとのこと。留学を1ヶ月後に控え超のつく忙しい日々を送っているため少し躊躇したが、メールに書き添えられた「帰ってきてからも皆に忘れられないためにも書いてみませんか?」の言葉に動かされた。「帰ってきてからも皆に忘れられないために」ではなく、「帰って来られるように皆さまに覚えていただくために」というしたたかな理由で執筆をひきうけさせていただいた。隣のデスクにいる現在のボス北澤茂先生には内緒である。留学前に論文を書き上げるために寸暇を惜しんでいることになっている。

さて、「留学体験記」ではなく「留学準備記」である。(1)なぜ留学するのか、(2)どのようにして留学先を決めたのか、(3)留学準備、(4)留学先での研究、(5)留学に対する期待と不安、について書かせていただきたい。

(1)なぜ留学するのか。留学したい大きな理由の1つは、国際的なコミュニケーション感覚の習得のためである。海外の学会やシンポジウムに参加すると他国の研究者にどのように対面すればよいか戸惑う。英語力をつけるのみならず日本の英語学校ですむかもしれないが、世界の神経研究界の中で胸をはって泳いでいけるように対等に議論する能力を身につけたい。将来に渡ってつきあえる友人を海外につくりたい。留学はそのための絶好の機会であると考えている。

(2)どのようにして留学先を決めたか。上のように書くと、研究場所は海外であればどこでもよいように読めるが、やりたい研究ができる場所ではなくてはならない。これまで自分が行ってきた眼球運動制御と腕運動制御の研究分野の論文の中から、最も面白く、自分の興味の対象に近く、かつ、アイデアの湧く研究を1つ選び出した。米国ピッツ

バーグ大学のPeter Strick教授の研究室で研究された寛慎治先生(現在東北大学大学院生命科学研究科)の論文だった。寛先生に電子メールを書き相談にのっていただきStrick教授に推薦していただいた。寛先生にはその後も色々相談にのっていただいている。厚く御礼申し上げたい。私の過去の研究、腕運動時のサル小脳プルキンエ細胞活動記録、眼球運動の視覚座標から運動座標への変換とその結果による視覚運動適応が小脳の可塑性により生じうることを示したコンピュータシミュレーション、に関して記載した履歴書をStrick教授に送った。

(3)留学準備。前々回の北米神経学会大会でStrick教授と面談。ファンドを取ってくるのが望ましいとのこと。国内で数年ポスドクをしていたためHFSPL長期フェローは審査対象にならず学術振興会の海外特別研究員に応募。昨年10月末に採用通知を受けとり、本年の2月に出発するファンドであるため急遽準備を開始。留学1ヶ月前にして先週やっとビザの申請書類が揃い米国大使館に提出。現在の研究所で行った研究を留学前に論文としてまとめることに追われ、引越しの準備に未だ手がついていない。今後留学される方に参考になる情報をここに書ければよいが逆にこちらが教えていただきたい状況である。先達の友人達(星英司さん(ピッツバーグ大学)、宇賀貴紀さん(ワシントン大学))から電子メールで情報を送ってもらっている。役にたつweb pageとして「研究留学ネット」(<http://www.kenkyuu.net/>)をご紹介する。本としても医師薬出版社から販売されており(「研究留学術_研究者のためのアメリカ留学ガイド」)、福士珠美さん(ミネソタ大学)の留学体験記も読めて面白い。

(4)留学先での研究。もちろんこれから行う研究内容については詳述できない。自分のアイデアとStrick教授のアイデアの合致した課題で実験を行う。彼は研究歴も長く知識が多くアイデアも豊富だ。多くの議論を楽しんで来たい。私がこれまで関わった小脳ではなく大脳皮質から腕運動中の細胞活動を記録する予定である。

(5)留学に対する期待と不安。研究そのものへの期待、海外での初めての生活に対する期待が大きい。あちらでの生活に対する大きな不安はない。新しい環境に適応できるほどには若い、新しい環境でオドオドするほどには若くない、丁度よい研究者年齢であるように思う。広い空の下、研究と生活を楽しんできたい。一般に留学する年齢の者の多くは結婚時期にありプライベートな問題をかか

えているのではなからうか。私だけか？また一般に留学する者にとって留学後の日本の就職口は不安材料であろう。アメリカで研究生活を続けるのもよいではないか、とも思うが、プライベートな問題とからむとなかなか大変だ。数年後の日本の神経科学の研究環境が今以上によくなっていることを期待すると共に、お世話になった先生方へ年賀状は忘れずに出そうと思っている。

ピッツバーグで共に仕事をする事になっている Donnaさんから電子メールが来た。ピッツバーグは連日零下10度以下の日が続いているらしい。大学院の数年を過ごした雪国新潟もそこまでは寒くなかった。暖かいダウンジャケットはアメリカで買ったほうが安いのか、買うまでに凍えてしまうので日本で買って行ったほうがよいのか、と細かいことに悩みながらも論文作成を続けている。

INFORMATION

シンポジウム・研究会



第18回

日本生体磁気学会大会

開催日:平成15年5月30日(金)~31日(土)
場所:池田市文化会館(〒563-0031大阪府池田市天神1-7-1)

大会長:外池 光雄(産業技術総合研究所)

テーマ:生体磁気計測、磁気生体作用、磁気共鳴イメージングなど

演題締切:平成15年3月7日(金)(数行の概要添付)

原稿締切:平成15年3月28日(金)(刷り上がりA4用紙2頁)

大会事務局では一般演題を募集します。会員以外で演題募集要項(1~2月頃発送)が必要な方は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先:

〒563-8577 大阪府池田市緑丘 1-8-31

産業技術総合研究所ライフエレクトロニクス研究ラボ内

第18回日本生体磁気学会大会事務局

Tel:072-751-8526, Fax:072-751-8416, e-mail:

jbiomag2003@ma.aist.go.jp

大会ホームページ: <http://www.biomag-j.org/>

JBiomag2003/

CNS*03



計算論的神経科学学会 開催のお知らせ

1. 日時 2003年 7月5~9日
2. 場所 スペイン東部海岸、Alicante
3. 参加申し込み・問い合わせ

<http://www.neuroinf.org/CNS/>

The Annual Computational Neuroscience Meetingが、7月にスペインの東部海岸で開催されます。CNSは今年で12回目となる学会で、例年2・3百程度の演題がsingle-track oral と poster で発表されます。神経生物学の計算論にフォーカスした学会で、実験・モデル・理論的アプローチの論文を集めています。論文の審査基準として、生物学対応が上げられているのが特徴で、神経科学会会員の皆様にも興味深い学会と存じます。この学会は、CNS機構(会長: Christiane Linster(Cornel U))が主宰し、今年の Program Chair は Erik DeSchutter (U. Antwerp)が務めます。審査で高成績だった論文は、Neurocomputing 誌に research article として掲載される予定です。詳細については上記 web site をご覧下さい。(筑波大学 電子・情報工学系 酒井 宏, CNSF, Member, Board of Directors)



2003 国際下垂体 後葉ホルモン会議

2003 World Congress

On Neurohypophysial Hormones

[日時]2003年8月31日(日)~9月4日(木)

[場所]京都国際会館(京都市左京区)

[会長]河田光博(京都府立医科大学)

[内容]下垂体後葉ならびに腎臓に関する分子から個体までの基礎および臨床研究を網羅した国際会議です。

基調講演:Dietmar Richter (Hamburg University, Germany), Joseph Verbalis (Georgetown University, USA), Michael McKinley (Melbourne University, Australia), Sei Sasaki (Tokyo Medical and Dental University, Japan), Donald Pfaff (Rockefeller University, USA), Françoise Moos (CNRS, Montpellier, France), John Russell (Edinburg University, UK)

他、シンポジウム24題, ポスター: ポスター発表を広く募集しております。

[講演内容詳細・申込方法]下記ホームページをご覧ください。

<http://www2.kpu-m.ac.jp/wcnh/>

[連絡先]〒602-8566京都市上京区河原町広小路
上る京都府立医科大学・第一解剖

担当:西真弓 TEL: 075-251-5301, FAX:075-251-5306, E-mail:wcnh2003@basic.kpu-m.ac.jp

「財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞」(以下、山崎貞一賞と記します。)は、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的とし、また、当財団の初代理事長を勤めた故山崎貞一氏の科学技術および産業の発展に対する功績、人材の育成に対しての貢献を記念して創設された賞であります。

2.選考対象分野

(1)「材料」(2)「半導体及び半導体装置」(3)「計測評価」(4)「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」

3.選考対象者:詳しくは下記の請求先へお問い合わせ下さるか、URLをご覧ください。

(1)法人・受賞候補者の国籍を問わず、日本国内における業績を授賞対象とします。

(2)論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用的効果につながる優れた創造的業績をあげた人、もしくは、今後そのような業績をあげる可能性が高い将来性のある人としします。

尚、候補者は個人・グループであることを問いませんが、グループを推薦される場合は、1グループを1件とみなします。

(3)過去に応募されたことのある人でも、更なる業績のある場合は応募可能です。

4.顕彰

各分野1件それぞれに賞状及び副賞(メダル・賞金300万円)を贈呈します。

5.締切期日・贈呈式

推薦受付期間:2003年2月1日~4月末日/贈呈式:2003年11月20日頃

6.募集について

山崎貞一賞は、一般公募並びに推薦によって候補者を募集いたします。なお、自薦・他薦を問いません。

7.推薦書請求先・提出先

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6
財団法人材料科学技術振興財団
山崎貞一賞事務局
TEL:03-3415-2200
FAX:03-3415-5987
E-mail: prize@mst.or.jp
URL:<http://www.mst.or.jp/>

研究助成



第3回(2003年)財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞

推薦要綱

1.山崎貞一賞設立の目的

当財団は昭和59年8月の設立以降、材料科学技術の振興を図り、もって我が国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与することを目的として幅広い活動を展開して参りました。



**(財)加藤記念バイオサイエンス
研究振興財団
第15回加藤記念国際交流助成
について**

〔第15回加藤記念国際交流助成募集要項〕

- 1.助成対象者:平成15年4月1日から平成16年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者。
- 2.申込資格:応募締切日に35才以下の方(医学系の大学卒業者は37才以下の方)。
- 3.助成内容:所要経費の一部を援助する。
- 4.助成金額:総額750万円。
- 5.援助件数:30件程度(前期;20件程度、後期;10件程度)。
- 6.応募方法:当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む。
- 7.応募締切:前期;4/1~9/30の期間に発表される方は、平成15年5月31日。
後期;10/1~翌年3/31の期間に発表される方は、平成15年8月31日。
- 8.審査方法:当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。
- 9.申請書の請求先:下記あて「はがき」、「ファクシミリ」または「メール」にてご請求ください。
- 10.助成を受けられた方はA4 1~2枚程度の報告書を提出して下さい。当財団の「財団年報」に掲載する予定です。
- 11.助成が決定した場合、氏名、所属機関、研究テーマ、参加学会名等を財団年報、ホームページ等により公開いたします。ご了承下さい。

連絡先

(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
 住所:〒194-8533東京都町田市旭町3-6-6
 電話:042-725-2576
 FAX:042-722-8614
 E-mail:knochida@kyowa.co.jp
 担当: 持田 顕一



**公益信託
成茂神経科学研究助成基金
2003年度応募者募集のお知らせ**

当基金は、下記募集要項により本年度応募者を募集致します。

記

〔募集要項〕

- 1.助成対象
(1)神経科学の研究に対する研究費の補助、奨励金の交付。
助成金額:1件あたり30~50万円程度
(2)神経科学に関する海外の学会に参加・発表するための渡航費の補助
(対象 平成15年7月~平成16年6月までに開催される海外での学会)
助成金額:1件あたり10~20万円程度
(3)神経科学に関する講演会・研究集会等の開催、外国学者の招聘又は論文発表、図書の刊行等に対する費用の補助。
助成金額:1件あたり20~30万円程度
- 2.応募資格
(1)学部生・大学院生は対象外とする。
(2)若手研究者(40才以下)を優先する。
(3)申込は一人1対象項目とする。
- 3.応募期限 2003年5月末日(必着)
- 4.応募要項請求先
応募要領及び申込書は、返信用封筒(長形3号、80円切手)を同封の上、下記宛請求して下さい。
〒100-8212 東京都千代田区永田町2-11-1
三菱信託銀行個人資産相談部
公益信託推進室

以上

公 募



**東京大学大学院
総合文化研究科広域科学専攻
(相関基礎科学系)助教授**

公募人員:助教授1名
専門分野・仕事の内容:先端的計測技術を用いて、学習・認知など、生体の高次機能について

開拓的研究を推進する方。大学院(関連基礎科学系)・後期課程(基礎科学科の3,4年生)・前期課程(教養学部1,2年生の物理または化学)の教育を担当。

応募資格:博士号取得者

着任時期:決定後のできるだけ早い時期

提出書類:(1)履歴書、(2)業績リスト、(3)主要論文別刷6編、(4)今までの研究概要(2000字程度)と今後の研究・教育の抱負(2000字程度)(5)本人についての照会可能者2名の氏名・所属・連絡先。(1)から(4)については2部づつ。

応募締切:2003年4月30日(水)必着

書類送付先:〒153-8902 目黒区駒場3-8-1、東京大学教養学部 基礎科学科主任 遠藤泰樹

封筒に「応募書類在中」と朱書き、簡易書留あるいは書留で送付のこと

問い合わせ先:東大大学院 広域科学専攻 関連基礎科学系 小宮山進

e-mail: csusumu@ASone.c.u-tokyo.ac.jp, Tel:03-5454-6738

ホームページ: <http://dbs.c.u-tokyo.ac.jp/index.en.html>

ニシヤン)履歴書、経験のある実験技術の概要、できれば推薦書1通

7.募集締切:特になし

8.送付先、問合せ先:

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1 東京大学 医科学研究所 神経ネットワーク分野 真鍋俊也

TEL:03-5449-5799

E-mail:tmanabe-ky@umin.ac.jp

POSTDOCTORAL POSITION



Retinal & Circadian Neurobiology, Brown University

Postdoctoral position available immediately for functional studies of mammalian retinal ganglion cells that are directly photosensitive and serve as circadian photoreceptors.

Experience in electrophysiology required. Send CV, statement of research interests and names of three references to David Berson, Dept. of Neurosci., Box 1953, Brown Univ., Providence RI 02912. Apply by 3/15/03 for full consideration. David_Berson@brown.edu. Brown University is an Affirmative Action/Equal Opportunity employer. Women and minorities encouraged to apply.

The successful applicant will join our studies of opsin-expressing, directly photosensitive ganglion cells that encode ambient light levels, synchronize circadian rhythms, and drive pupillary and other non-image-forming responses. Explore phototransduction cascade and interactions with rods and cones. Our findings appear in three recent articles in Science (295: 1065-1070, 2002; 295: 1070-1073, 2002; and 299: 245-247, 2003). Dr. Motoharu Takao, a Japanese postdoc in the lab, coauthored these papers. Techniques: whole-cell patch recording, light stimulation, pharmacology, axonal tracing, immunohistochemistry, confocal microscopy. NIH-funded.



東京大学医科学研究所 神経ネットワーク分野 ポスドク、テクニシャン募集

- 1.募集人員:ポスドク2名、テクニシャン1名
- 2.研究内容:「高次脳機能の分子生理学的解析」および「遺伝子改変マウスを用いた神経系の研究」の研究テーマのもと、電気生理学、生化学、分子生物学、行動学の手法により神経機能の分子機構の解明を目指す研究に従事していただきます。また、それに必要な遺伝子操作マウスの作製などを担当していただきます。
- 3.着任時期と期間:随時可能。2~3年。
- 4.応募資格:(ポスドク)博士号取得者あるいは着任までに取得見込みで、電気生理学、分子生物学あるいは行動学の経験がある方。(テクニシャン)分子生物学または薬理学実験の経験がある方。
- 5.給与:科学技術振興事業団、井上科学振興財団、あるいは東京大学の規定による。詳細はお問い合わせください。
- 6.提出書類:(ポスドク)履歴書、業績リスト、これまでの研究の概要、応募理由、推薦書2通。(テク

そ の 他



神経科学ニュース電子版 パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードにはUminのパスワードが必要です。皆様方の会員固有のuser ID, パスワードを入力してください。又当面の間、これまでのUser ID : J-Neuro、パスワード : News でもアクセス可能です。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。どうしてもダウンロードできない方はPagemaster@neuro.sb.gunma-u..ac.jp宛にご連絡下さい。

編 集 後 記

北陸では雪国の長い冬もようやく終わろうとしておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本ニュースのトップ記事にありますように、例年より約2ヶ月早い演題締めきりにもかかわらず、第26回神経科学学会大会に総数1181題の演題登録がありました。大会長の西野先生を中心に着々と準備が進んでいるようですが、活発な会にするために会員の皆様の積極的参加をお願い申し上げます。神経科学ニュースでは、今後7月の大会まで、最新情報を盛り込んだお知らせを掲載する予定でいます。また、Neuroscience Research 編集主幹の津本先生から、冊子体購読依頼の記事が載っておりますが、この点につきましても会員の皆様の御協力を是非お願い申し上げます。4月からも現在のメンバーで編集を続けることになりましたが、神経科学ニュースをより一層充実させるため、引き続き努力してゆく所存です。また、皆様からの記事、アイデアなどお待ちしておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

(狩野記)

発行：広報委員会
村上富士夫（委員長）
狩野方伸（ニュース編集小委員会委員長）
蔵田 潔（電子化推進小委員会委員長）
白尾智明（ホームページ担当小委員会委員長）
寺島俊雄 久保義弘 鍋倉淳一 坪川宏 小林康